

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	88人	算数	87人	理科	87人
第5学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人

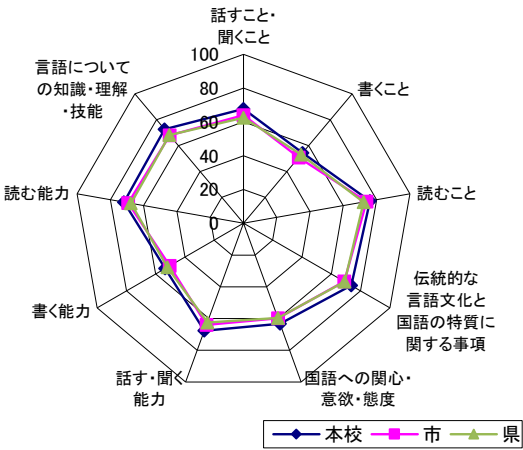
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	67.7	64.0	62.5
	書くこと	54.3	50.9	53.1
	読むこと	76.0	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	63.3	59.9	59.7
	話す・聞く能力	67.7	64.0	62.5
	書く能力	53.6	50.4	52.0
	読む能力	71.8	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	72.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

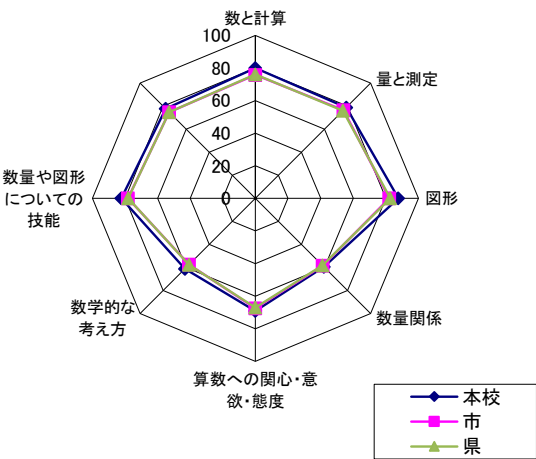
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことについて、ほとんどの正答率が平均以上である。特に、話し方の工夫について、正しく答えられた児童の割合は78.0%で、県平均より10ポイント高く、おおむね身に付いているといえる。	・「自分の考えを端的に話す」、「理由を挙げながら筋道を立てて話す」については、力を入れてきたところである。今後も、話の中心や話す場面を意識して話すよう指導するとともに、継続的に話す活動を取り入れ、話す力を高めたい。
書くこと	○書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことについての問いの正答率は69.5%と県平均より10ポイント高い。 ●しかし、指定された字数で文章を書くことについての正答率は37.8%であり、県平均より6.3ポイント下回っている。また、定められた段落構成で書くことについても、平均正答率が48.8%で50%を切っており、指定された字数や段落構成で作文を書くことにおいて課題が見られた。	・指定された字数や段落構成で文章を書く取組を、国語の授業だけでなく、朝の学習や宿題などで取り入れたり、日頃の指導の中で文章を書くことに慣れさせるような学習活動を積極的に取り入れたりすることで、書く力を高めたい。
読むこと	○物語文も説明文も正答率は、多くの設問で県平均以上であった。 ●しかし、説明文において段落の関係を考える設問においては45.1%と県平均を下回っており課題がある。	・説明文の学習においては、説明文の構造を理解させるために段落どうしの関係やつながりを考えさせる指導を行って読解力を高めたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の「読み」に関しては、正答率が87%以上であった。「書き」に関しては、「坂」の正答率が3ポイント下回っていたものの全体としては県平均を上回っていた。ローマ字においては、県平均より5ポイント以上高かった。	・漢字の読み書きにおいては、特に書くということに力を入れて引き続き指導をすることで、力を伸ばしていきたい。具体的には、漢字練習だけでなく習った漢字を使って文章を書く機会を増やす等工夫していきたい。ローマ字においても力がついてきているので継続してより定着が図れるよう指導していきたい。 ・国語辞典に関しては授業の中で辞典を使う機会を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.0	75.8	76.1
	量と測定	78.8	76.5	76.0
	図形	87.7	82.1	82.7
	数量関係	59.5	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	69.1	67.4	67.0
	数学的な考え方	61.2	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.3	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	77.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

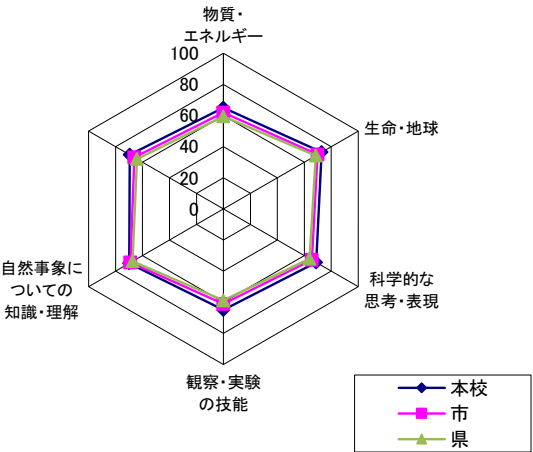
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○計算については、たし算・ひき算の平均正解率が88%以上、2桁×2桁のかけ算は79%程度だが、県平均より5ポイント以上高く、十進位取り記数法についての理解も95%で県平均より5ポイント以上高かった。 ●「かけ算の筆算に出てくる数字の意味の理解」については課題がある。	・計算の正しいやり方を身に付けるには、個人差に対応した指導と習熟を図るための反復練習が必要である。4年生からは、週3時間T・Tによる指導があるなど個人差に応じられる体制が整っている。その中で、単に計算するだけでなく、計算の途中に出てくる数字の意味も把握させないと本当の計算の意味は理解できない。さらに授業の見直しなど改善を加え、計算力の真の向上を図っていきたい。
量と測定	○2つの時刻を比較してその間の時間を求める問題では、正しく答えた児童が86%以上で、県平均より10ポイントも高かった。はかりの目盛りの読み方の理解も県平均を上回っている。 ●身近にあるものの重さの単位については課題がある。	・量感を伴った理解ができるように、測る前に測るものを持って予想を立てるなど、身の回りにあるものの大体の重さを経験的に分かるように工夫する。
図形	○直径10cmの円を選ぶ設問や定規とコンパスから正三角形を作図する設問については、いずれも正答率が90%以上で、他の領域と比較してもよく身に付いていると言える。 ●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める設問では、正答率は県と同程度であったが、理解に差がある。	・基礎的な内容はよく身に付いているので、発展的な様々な問題に取り組ませるようにすることで、知識を活用する経験をさせ、学んだことを活用する力を養うとともに、思考力を高めていくようにしていきたい。
数量関係	○□を使った式の設問では、減法を扱った2つの設問についての正答率は80%以上で、おおむね身に付いていると言える。 ●□を使った式で乗法を扱った設問については、正答率が37%であり、乗法の意味の理解が十分でないと思われる。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する設問についての正答率は21%であり、無回答の割合も高く、課題がある。	・基本的な四則計算はおおむね身に付いているものの、乗法や除法の意味の理解については、十分定着していない。具体的な場面を想定したり、具体物を操作しながら説明したりする活動を通して、意味の理解につなげていきたい。 ・記述の問題に抵抗がある児童が多いと思われる。算数の学習でも、普段の授業から、自分の考えを説明したり記述したりする経験を増やせるよう、課題を工夫していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第4 学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.0	61.9	59.4
	生命・地球	72.8	69.8	68.5
観点	#REF!	68.7	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	64.9	61.0	58.8
	観察・実験の技能	69.9	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	69.5	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物の重さ」の内容では、「物質は形が変わっても重さは変わらないことを理解し、それを説明できる」に対する正答率が91.4%であった。 ○「風やゴムのはたらき」の内容では、「実験の結果からわかる風のはたらきについて説明することができる」に対する正答率が84%であった。 ●「物質・エネルギー」の領域では「光の性質」「風やゴムのはたらき」「じしゃくの性質」「物の重さ」「電気の通り道」の内容からの出題であった。内容別に比較すると、他の内容に比べて「電気の通り道」の正答率が低かった。特に「電気の取り道」の内容で、「電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明できる」に対する正答率が25.9%であった。	・短答式や記述式の問題に対し、困難を感じている児童が多いことがわかる。授業のまとめやふりかえりの時間を十分確保し、今日学んだことを文章にしてふりかえり、知識をより確実なものにするとともに、自分の伸びを実感できるような授業改善に臨みたい。
生命・地球	○「ダンゴムシのすみかを理解している。」の正答率は96.3%,「ダンゴムシを正しく観察することができる。」は92.6%,「植物の体のつくりを理解している。」は96.3%,「昆虫の体のつくりを理解している。」は96.3%,「遮光板を使って太陽を見ることができる。」は97.5%で、よく身に付いていた。 ●「ホウセンカのタネを正しくまいて世話をすることができる。」の正答率は21%,「植物の育つ順序を理解している。」は59.3%,「他の班が、操作をどのように誤ったのか指摘することができる。」は54.3%,「太陽と影の動きについて理解している。」は25.9%と低い正答率であった。	・ダンゴムシや植物の体など、実際に観察をすることで理解が深まっていくものであり、引き続き、体験させながら学習活動を進めていく。 ・「太陽と影の動き」では、太陽は東→南→西に向かって動くことは理解できていても、東がどの方角だったかの理解が不確実な児童が見られた。また、太陽と反対の向きに影ができることはわかっているが、その動きを方角で示すとなると、困難を感じている児童が見られた。4学年でも太陽と月・星の単元で方角については再度学習することになるので、方角についての理解を星座早見などを使って復習し、確実に理解できるようにしていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」と8割以上の児童が肯定的に回答しており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

●「自分の考えを文章にまとめて書くこと」や「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」を苦手としている児童が多い。書く活動では、文章の「型」を示したり、皆の前で発表する前に、ペアで話し合わせたりするなど、抵抗感を減らす工夫をしていく。

○●家庭学習について、学校で目安にしている時間、学習している児童がほとんどであるが、「30分より少ない」「全くしない」と回答している児童もいる。家庭学習の目的と内容、目安の時間等を児童に指導し、主体的・計画的に取り組めるよう、家庭と連携を図っていく。

○学校生活においては、「学校のきまりを守っている」「学校での役割や仕事に責任をもって取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均と比べて大きく上回っている。さらに、きまりの中で、児童が工夫して活動できるよう、活動の機会を確保していく。

○「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心掛けている」等の肯定的回答の割合の高さは、安定した学校生活につながっていると考えられる。

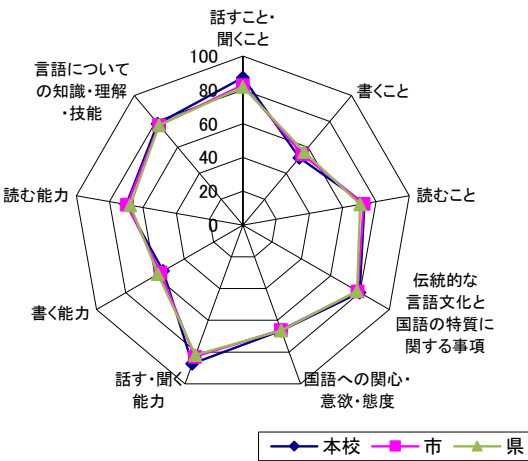
●平日、ゲームで遊ぶ時間が2時間を超える児童が3割以上いる。学習や読書の時間にも充てられるよう、家庭へも働きかけていく。

○「自分にはよいところがあると思う」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」などの肯定的回答の割合が、県や市の平均と比べて高くなっている。今後も学習や生活において、一人一人が活躍できる場を意図的に設け、児童一人一人の自己肯定感が高められるよう、働きかけていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.3	82.9	81.8
	書くこと	52.1	54.8	56.5
	読むこと	73.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.9	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	66.5	66.0	66.4
	話す・聞く能力	87.3	82.9	81.8
	書く能力	54.4	56.3	57.9
	読む能力	70.0	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	78.4	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

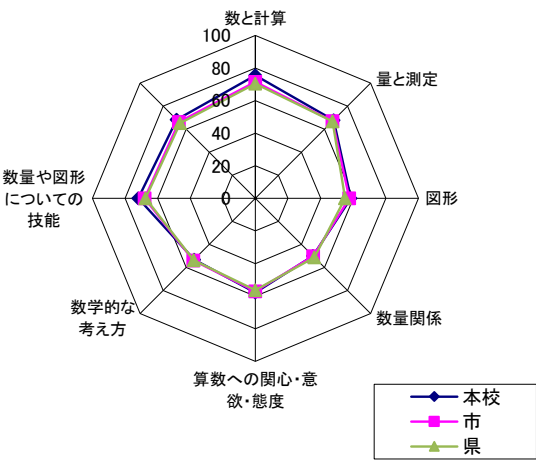
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○他領域と比べると話すこと・聞くことの正答率は高く、身に付いている児童が多いといえる。特に、昨年に引き続き、話し合いの内容を聞き取る問題の中で「司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめることができる」項目の平均正答率は82.0%で、県平均と比べて7ポイント高い。	・「自分の考えを端的に話す」、「理由を挙げながら筋道を立てて話す」については、力を入れてきたところである。今後も、自分の考えを明確にした上で、根拠を示しながら考えを伝え合う学習を意図的に取り入れたり、朝の会や学級活動など国語以外でも継続的に話す活動を取り入れたりすることで、話す力を高めたい。
書くこと	●他領域と比べると書くことの平均正答率は低い。中でも字数や段落構成を考えて自分の考えを書くことは苦手な傾向にある。また、資料から情報を適切に読み取り、文を書くことについても県平均よりやや高かったものの、平均正答率は50%以下であった。	・国語の授業だけでなく、日頃の指導の中でも文章を書くということに慣れることができる学習活動を積極的に取り入れ、書く力を高めたい。そのために指定された長さや段落構成で文章を書く練習を朝の学習や宿題などで取り入れる。
読むこと	○物語の場面や登場人物の気持ちを読み取ることについては、平均正答率が70%を超えている。 ●昨年に引き続き、読むことの中でも説明文において内容を的確に読み取るものの平均正答率が低い。	・物語文の読み取りについては、読み聞かせや読書の効果が表れていると思われるので、継続して行う。 ・国語の授業の中で、事実と感想、意見などとの関係を捉えた上で、文章全体の構成を捉える学習を丁寧に行っていく。また、国語以外の教科(社会や総合等)でも調べ学習等を通して説明的文章(物語以外の色々な文章)に触れる機会を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の「読み」は85%以上の正答率なので、ほとんどの児童がおおむね身に付いているといえる。 ●「書き」については、読みと比べると正答率は低い。4問中2問の正答率が約70%で、県平均より5ポイント程低かった。また、昨年は国語辞典の使い方の方の平均正答率が低かったが、今年も漢字辞典の使い方の平均正答率が65.3%とやや低く、辞典の使い方が十分身に付いていない児童がいる。	・漢字の「書き」については、漢字練習だけでなく、習った漢字を使って文章を書く機会を増やす。 ・分からない言葉や漢字を辞典で調べる機会を増やし、習慣付ける。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	71.5	70.4
	量と測定	67.8	67.0	66.9
	図形	58.5	57.6	55.0
	数量関係	50.0	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	57.8	57.0	56.3
	数学的な考え方	53.2	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	71.9	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	68.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

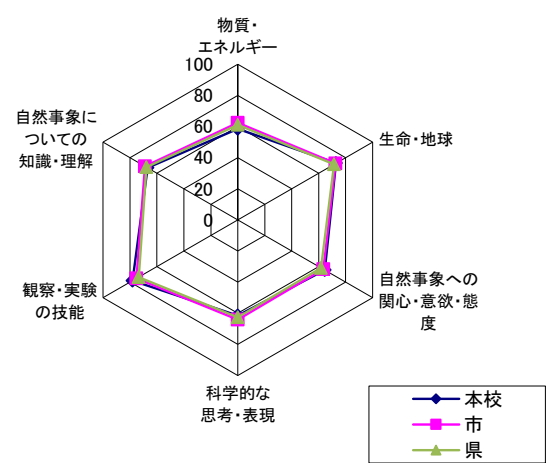
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○学校で力を入れている計算については、小数のたし算、ひき算、かけ算、わり算、分数のたし算、ひき算いずれも県平均よりも5ポイント以上高かった。 ●「□を使って式に表す。」という問題は、県の平均よりも5ポイント以上低く、倍とわり算の文章問題を表した図の構造をとらえられない児童も多く、課題がある。	・計算技能については、コース別学習や個別指導を行うことで、引き続き一人一人に応じた指導を行っていきたい。 ・基準量と比較量の意味を図や数直線などで理解させ、自分の言葉で説明する活動を設ける。
量と測定	○角の大きさや面積を求める問題は、県の平均よりも5ポイント以上高かった。 ●「教科書のおよその面積」を考える問題では、県の平均よりも5ポイント以上低く、身の回りのもののおよその面積を理解し、正しい単位で答えることができなかった。	・およその面積を経験的に、量感を伴って理解できるように、教科書や机・教室・黒板など見慣れているもののおよその面積を計算する前に予想を立ててから求める活動を取り入れたり、知りたいもの面積を予想を立ててから求めるたりする。
図形	○「直方体の与えられた辺に垂直な辺」を求める問題は、県の平均よりも10ポイント近く高い正答率だった。 ●「地図から情報を読み取って説明する」問題は、地図や説明文から、どんな手段で問題を解けばよいか分からず、県平均よりは高かったものの、正答率は18%程度だった。	・学習の発展として、様々な問題に取り組ませるようすることで、学んだことを活用する力を養うとともに、考えたことを説明したり記述したりする学習を取り入れ理解を深める。
数量関係	○「折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する。」問題は、県平均よりも5ポイント以上高い正答率だった。 ●「棒を粘土玉でつなげる」問題では、棒が増えるのに伴って粘土玉がどのように増えるかを考え、2つの数量の関係を表す式に表すことができなかった。	・2つの数量の関係について指導する際、与えられた問題について図を描いたり計算したりすることでデータを集める活動を充実させて表に表すこと、表の数値を縦や横に関連付けてみると変化の規則性が見えてくること、それを基に言葉の式を考えること、と順を追って丁寧に指導し、考え方の手順を理解させる。その上で図や表から変わり方を考え、表に当てはまる数を考える問題や伴った2つの関係を式に表す問題に数多く取り組ませる。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.5	62.4	61.1
	生命・地球	72.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.5	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	61.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	78.1	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	67.0	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○基礎的用語や基本的な知識を問う問題は、高い正答率であった。 ○気温の測定の仕方、星座早見の使い方など、実際に体験した実験や観察に関しての問題は、正答率が88%と正しく回答できていた。 ●物の温まり方についての物の性質や変化のきまりを使って結果を考える設問では、知識の活用がうまくできず、41%と低い正答率となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ○結論を導き出す問題やいくつかの要素を併せて考える必要がある問題では、設問を正しく理解し、常に物の性質と比べながら順序良く思考を進めていくよう指導していく。その際は、説明に必要な用語を適切に使えるよう、引き続き指導していく。 ●授業で行った観察や実験をもとに、そこから得られた結果やきまりから別な条件の結果を類推する学習も取り入れていく。
生命・地球	○見る、触れる、生活で感じる等の実感がある自然事象については、高い理解を示した。 ●動物の体のつくりの単元で、学習した事柄から、見えないことや経験していないことを類推したり、いくつかの特性を並行して考えて比べたり関係させたりする問題では、66.7%と低い正答率となった。	●実験や観察をして得られた結果をまとめて終わるのではなく、なぜこのような結果になったのかの理由について思考させ、自分の文章でまとめる学習を通して、事象とその結果に関係したきまりを結び付けて理解させるようにする。その際は、説明な用語を適切に使えるよう、引き続き指導していく。 ●2つの事象を同時に思考する際には、それぞれの条件を整理してから各事象の特性を適応しつつ思考を進めるような学習を、単元の特性に合わせて取り入れていく。

○●学習について、86.9%の児童が「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と答え、これは、県平均よりも2.3%高い。学ぶ楽しさを実感している児童が多いといえる。しかし、「不思議だな」「なぜだろう」と感じるのは77.6%、疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたいと思うは54%で、ともに県平均より低く、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の否定的回答は22.3%で、県平均より6.5%高かった。今後は、疑問をもてるような教材の提示や、自分で調べて満足感を得られる機会を増やすことで、自ら進んで学ぶ児童の育成に努めたい。また、自分一人で解決できるような課題を取り入れることで、自分で解決しようとする態度の育成にも努めたい。

○宿題については、量・内容がちょうどよく自分にとって大切なものと考えている割合が90%ほどで、ほとんどの児童が行っていることから、宿題をする習慣が身に付いている児童が多いことがうかがえる。

●家庭での学習時間については、平日、休日とも県平均より高い。しかし、宿題以外の自分で考えた学習をしている児童は県平均とより高いものの64.5%であった。宿題以外の家庭学習について、内容や方法を個に応じて支援する必要がある。また、毎日同じくらいの時刻に寝ていると答えた割合は69.7%、早寝、早起きを心掛けている割合は73.7%で、ともに県平均よりも低い。さらに、平日のゲーム使用時間が、1時間以上と答えた割合も65.9%で、県平均と比べ7.3ポイント高い。時間の使い方や日常生活習慣を考える機会を多く設けていくことで生活時間の見直しを図り、学習時間を確保することの大切さを指導し、保護者にも協力を依頼したい。

○●学校生活においては、きまりを守っている割合は92.1%と高く、集団生活をする上で大変重要なことであるので今後も伸ばしていきたい。自分の役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる割合は92.1%であり、高いポイントを示している一方で、約半数が、自分がクラスの人に役立っていると思っていない。また、自分の行動や発言に自信をもっている割合は50%で、県平均と比べて12.4ポイント低く、難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している割合は64.4%で、県平均と比べ9.4ポイント低い。これらのことを踏まえ、児童の頑張りを認め励ますとともに、保護者とも連携しながら、失敗しても励まし合う温かい雰囲気づくりをすることで、自信をもって意欲的に活動できるよう指導していきたい。

○将来の夢や目標をもっている割合が90.8%で、9割以上の児童が将来について考えることができています。また、家の人と将来のことについて話すことがある割合が64.4%で、6割以上の児童が将来について親の人と共有し、一緒に考えることが分かる。今後も、将来について考えたり、様々な活動で目標をもたせたりする機会を増やしていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・漢字、計算力等、基礎力の向上 ・自分の考えや文、式、資料から読み取ったことを表したり説明したりする力 ・個人差への対応	・前学年までの漢字についても復習できるような工夫、少人数指導やコース別学習など個別指導の工夫、家庭学習の勧め等 ・教科の学習中だけでなく、朝・帰りの会や、日記指導、様々な行事の後など、機会をとらえて話す・書く機会を多く取り入れる。	・漢字、計算、国語における書く領域についての調査結果は向上してきた。しかし、漢字では「書く」ことの正答率が70%前後で県平均を5ポイント以上低いものがあり、計算においては、整数と小数の加法・減法の正答率が65%前後と、十分身に付いたとは言えない。 ・記述式の設問の正答率は、他の設問に比べ、どの教科も低めであった。特に、字数や段落に制限がある設問の正答率は低く、県の平均を大きく下回るものもあり、さらに継続した指導が必要である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えや読み取ったことを文章で表したり、説明したりする力の向上	・字数や段落等、表し方の条件に合うよう文章で表したり説明したりできるようにする。	・国語の読み取りの学習の中で、字数を意識させる確に読み取る学習をし、読み取ったことを字数や段落など条件を与えてまとめる学習をする。 ・算数の学習の中では、自分の考えを書かせる際、他の人にもわかるように短く順序立てて書くことを意識させるようにする。 ・他の教科等でも書く場合や、話す場合にも、伝えたいことの中心を明確にした上で表現するよう意識させる。 ・教科に係わらず自分の書いたものを見直す習慣を身に付けさせる。